

廣田桂子先生と行く、水の都市 ベトナム建築視察ツアー2012

2012年9月1日(土)～9月6日(木) 早朝 4泊6日

ベトナムは、そのパーマカルチャー的文化和住環境から、世界でも有数の環境的建築を実際のくらしに反映させている国です。日本木造文化も上手く使いこなすベトナムの独特の歴史、文化から生まれた建築、特にベトナムの竹建築から持続維持可能な建築のヒントを得ようというのが今回の建築視察ツアーです。

視察先ハイライト

Bamboo Wing (ハノイ)

東大出身のベトナム人建築家ヴォ・ジョン・ギア氏により設計された1600平米のプロジェクト。2000年竣工したレストランです。自然素材は、建材としては弱かったり、恒久性にかけては思われていますが、このプロジェクトにおいて、竹はベトナム社会・文化にとって、はなくてはならない持続維持可能な建材としてステイメントされている。今後の環境建築にとって、重要な材料である点だけに限らず、周辺敷地との共生をも見事に表現している作品。



一柱寺(延祐寺) (ハノイ)

ベトナム李朝(1010-1225)の仏教建造物です。太宗(リー・タイ・トン)が1049年に創建した寺で、1本の柱の上に仏堂をのせた形から、一柱寺と呼ばれている。仏堂は小さいがベトナムを代表する古刹であり、自然との共生やパーマカルチャー的くらしが建築物に表現されている。



世界遺産・ホイアン日本人街 (ホイアン)

ホイアンは16世紀から17世紀にかけ、海のシルクロードの中継地として栄えた。江戸幕府の貿易禁止令が出されるまでは日本人も数多く来訪し、日本人町が形成されていたのだといえます。その日本の木造建築の影響をじっくり味わっていただけます。



来遠橋(日本橋)Cau Lai Vien

U Café (ホイアン)

ベトナムのパーマカルチャー的暮らしを日本的な解釈で現代建築として具現化した、施主臼田玲子の意欲的な建物。

雨水利用とバイオフィルターを活用したその浄化サイクルは、施主の環境への取り組みと、ベトナム+日本的暮らし折衷という、ユニークなアプローチがあって、成り立っている。

このプロジェクトに関わった、現地の建築関係者にも直接お話を伺い、彼らのプロジェクトも視察の予定。



トゥボン川 Song Thu Bon (ホイアン)

ホイアンの中心です。これによって水運は稼動し、人々の毎日の食卓をにぎわす魚介類も提供しています。又、母なる川は、人々のゴミや汚れを清めてきてくれました。

一方、この川によって、毎年水害も起きるのです。バランスを考慮した自然との共生を、この川岸でじっくり考えてみたいですね。



ホイアン・マーケットCho Hoi An

